

4 未来を見据えた 「攻め」の産業振興

本年度を「攻めの元年」と位置付け、「新たな産業を呼び込む攻め」のアクション」に取り組みます。

まずは、県のU Xプロジェクトと連動し、空港周辺を新産業の一大拠点として、ライフサイエンス産業を中心とした新たな「知の集積」を図ります。また、企業立地の受け皿となる産業団地の整備や、産業ゾーンの拡充による積極的な企業誘致にも取り組みます。

さらには、「商業・農業が充実し

たにぎやかで楽しいまち」の実現のため、商業では、新しい商業施設や飲食店を呼び込み、次世代の意欲ある地元事業者を発掘・育成し、魅力ある店舗づくりを応援することで商業の活性化を図り、買い物が便利で楽しいまちづくりに取り組みます。

農業では、町内農家の意向などを踏まえ、農産物や加工品のブランド化を図ることで農産物の付加価値を高めます。併せて、大手食品メーカーへの納入などを目指す農家を支援します。さらに、町の農産物を活かした農産品加工施設、食育や体験ができる施設、地元農産物が味わえ

る施設などを誘致することで、食と農の拠点づくりを進めます。

5 ワンランク上の 子育てしやすいまちへ

町の宝である子どもたちが、心身に健全に発育するためには、「安心して楽しく子育てしたくなる環境づくり」が必要です。その一環として、待機児童の解消や子ども医療費無償化の高校生までの拡充など、子育てと仕事を無理なく両立できるような環境を作ってまいります。

また、妊娠から出産・子育てまで、切れ目のない包括的な子育て支援体制を整備し、不安なく喜びの多い子育てができる環境をつくりまします。

さらには、子育てに優しい快適な空間づくりを行うため、自然と触れ合いながら親子でゆったり余暇を楽しみむことができる魅力あふれる公園を整備します。

教育では、「まちづくりは教育から」との理念の下、子どもたちが地域で豊かな自然に触れ、人と交わりながら、遊びを通して自ら学び成長していく「まち全体が学びの場」構想の実現を目指します。

また、タブレット端末などを活用し、子どもたちの探求心や創造力を育むICT教育や、小中連携による英語授業を推進することで、教育水準の高いまちを作ってまいります。

6 町民が主役になれる フィールドづくり

「町民の『やりたい』を実現」するため、町民の皆さまが輝き、生き生きと活躍できる場を創設し、それぞれが主役となることのできる各種施策に取り組みます。

そのため、「復興まちづくりセンター」に「じいろ」などを活用して、幅広い年齢層の方々による、世代を超えた交流活動を盛り上げます。

また、明治時代に台湾に渡り、現地教育に命を懸けた志賀哲太郎氏を輩出した歴史から、台湾との小中学生レベルでの交流や訪日教育旅行の受け入れを通して、文化や教育面における台湾との国際交流を進めてまいります。

さらに、「若い世代や女性が活躍するまちづくり」を進めるため、SNSなどの活用や各種審議会などへの積極的な登用で、若い世代や女性の意見を行政に取り入れるとともに、活躍できる場の提供や起業支援などに取り組み、若い世代や女性のチャレンジを応援します。

震災により取り壊しとなった男女共同参画センターにつきましては、新たに中央公民館、地域ふれあい交流館の3つの機能を合わせ持つ複合施設とし、町民の皆さまの活動拠点として整備を行ってまいります。

(次ページへ続く)



4車線化工事が進む県道熊本高森線

(九州縦貫自動車道上空から熊本市方面に向かって撮影)